



大庭申だより

2021年(令和 3年) 4月6日

藤沢市立大庭中学校

校長 千葉 雄一

よろしくお願ひいたします

昨年度に引き続き、令和3年度も大庭中学校の校長を務めさせていただくことになりました。地域の皆様や保護者の皆様、今年度もよろしくお願ひいたします。大庭中学校は今年度、201名の新入生を迎え全校生徒559名、教職員39名でスタートしました。昨年度は、コロナ禍で大変な1年となりました。長期化が予想され、今後も容易には状況は変わらないのではないかと思います。学校においても様々な制約のある中、生徒の安心・安全を最優先に最善を尽くして参りますので、地域の皆様や保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

令和3年度・始業式

着任式に引き続き行われた始業式では2・3年生ともにそれぞれ進級した自覚が充分に感じられました。整列や話を聞く姿勢なども素晴らしく、大庭中学校の教育目標が今年度から変わる話やめざしてもらいたい生徒像、スローガンの話など、しっかりと聞いてくれました。3月の修了式から11日しかたっていないのですが、2・3年生としての自覚を感じることができました。3年生は大庭中学校の「顔」として、2年生は3年生と1年生をつなぐパイプ役としての役割をしっかりと果たしてもらいたいと思います。その後、行われた担任発表も和やかな雰囲気、拍手が起こるなど生徒と職員の関係の良さを感じることができました。



着任式の様子



始業式・担任発表の様子

大庭中学校の教育目標

令和3年度より教育目標が次の3つに変わります。

「自主性を育む」

「自律の精神を培う」

「創造力を磨く」

これまでの大庭中学校の教育目標は、創立以来のもので、変更されたことはありませんでした。大庭中学校は創立から40周年が過ぎ、次の50周年に向けて、新たな取り組みをスタートさせたいと考えました。そのため、教育目標を一新いたしました。

教育目標の3つの柱について

・自主性を育む
「自主性を育む」という目標は、学校の教育目標としては不易・普遍なものであると考え、1つの柱としました。

・自律の精神を培う
学校の教育目標では、自主性とならんで自立というワードも多いですが、自主性のある人は自立している人でもあると考え、あえて自らを律する「自律」を1つの柱としました。

・創造力を磨く
一人ひとりの「創造力」を磨くことが、一人ひとりの生活を豊かにしていくものと考えました。さらに、一人ひとりの「創造力」が地域や社会をよりよく発展させていくものと考え1つの柱としました。

教育目標を体現した生徒像

- ・言われなくても、自ら行動できる生徒
(自主性が育まれている生徒)
- ・善悪の区別を適切に判断できる生徒
(自律の精神が培われている生徒)
- ・前向きに努力し、より良い自分を築いていける生徒
(創造力を磨くことのできる生徒)

今年度もスローガンは

その「誰か」になろう!です。

その「誰か」になる生徒の育成に重点を置き、めざす生徒像に近づけ、教育目標を達成したいと考えています。

令和3年度・入学式

4月5日の午後は、第43回の入学式が行われました。近年、桜の開花がだんだんと早まる中、入学式まで花が残るか心配しましたが、大庭中学校にある桜の木は、入学を祝うように咲いていました。新入生一人ひとりの表情からは、これから始まる中学校生活に期待を膨らませている様子を感じられました。新入生には、豊かな心を持ち、授業を大切にし決まりを守れるように頑張ってもらいたいと思います。新入生代表の川上結愛さんのことばからは、これからの3年間で充実したものにしようとする意欲を感じることができました。



3/25 離任任式



3/26 吹奏楽部・定期演奏会

大庭城址の斜面に咲く桜

東京の桜の開花は、今年は3月14日でした。ちょうどその日に、六会日大前駅西口にある桜の木も開花していることに、朝、犬の散歩で気づきました。生まれてからこの方ずっと六会に住んでいる私は、この桜の木を子どもの頃から見続けてきました。樹齢はおそらく60年くらいになるのではないのでしょうか。この桜の木は、毎年、とても見事に花を咲かせてくれます。

その次の週、学校から弁天前のバス停まで向かう途中、大庭城址公園の斜面に白い桜が咲いているのに気づきました。大庭城址公園北側の斜面には、多くの桜の木が白い花を咲かせていました。この白い桜は、ヤマザクラかオオシマザクラでしょうか。さくら色というとソメイヨシノに代表される「淡い紅色」をイメージする人はいても「白」をイメージする人は少ないのではないのでしょうか。何でもそうですが、思い込みや決めつけは良くないことだと思いました。その昔は花見というと山に咲くヤマザクラを見に行くのが主流で、現在のような花見のスタイルになったのは、江戸時代、8代将軍・徳川吉宗の頃だそうです。それまでの日本人にとっては、さくら色といえば、「白」だったのではないかと思います。



六会日大前駅西口の桜



大城址斜面に咲く白い桜



大庭中で一番早く咲いた桜の木